



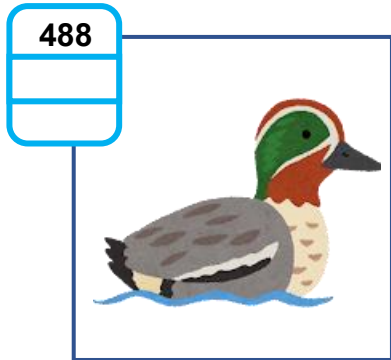
# 支援員だより

Vol. 57



## 「わたり鳥」ってしってる？

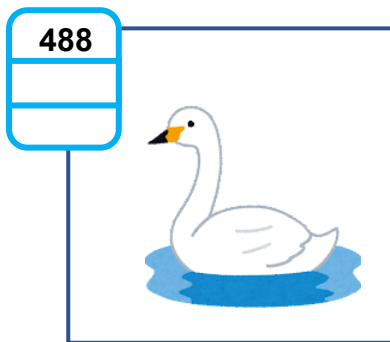
せんぼこ おおつかいけ 千波湖や大塚池には、そろそろ <sup>はくちょう</sup> 白鳥や <sup>かも</sup> 鴨などの鳥がやってきますね。 <sup>こんかい</sup> 今回は、そんな <sup>どり</sup> わたり鳥がでてくるおはなしやくわしく <sup>おし</sup> 教えてくれる <sup>ほん</sup> 本を <sup>しょうかい</sup> 紹介します。



『わたり鳥』

鈴木まもる 作・絵 童心社

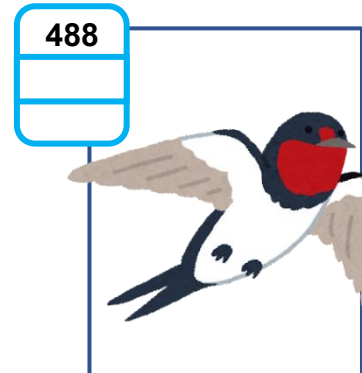
にほん せかいじゅう どり しょうかい  
日本と世界中のわたり鳥を紹介



『わたり鳥の旅』

樋口広芳 作 偕成社

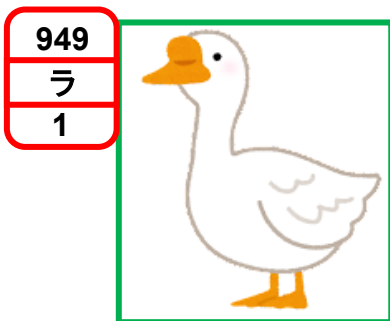
コハクチョウの <sup>せなか</sup> 背中に <sup>そうしんき</sup> 送信機を  
つけて <sup>ついで</sup> わたりに <sup>ついで</sup> 追跡



『海をこえるツバメ』

柚木 修文 小学館

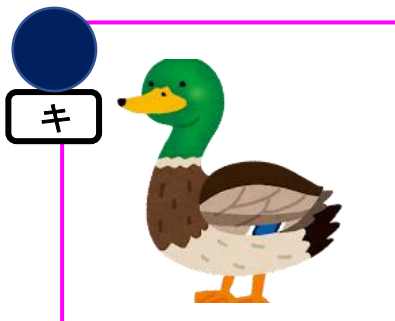
にほん 日本からわたって、また日本へと  
かえってくるくるものがたり



『ニルスのふしぎな旅』

セルマ・ラーゲルレーフ 原作  
学研プラス

妖精に <sup>ちい</sup> 小さくされてしまったニルスは、家のガチョウの <sup>せなか</sup> 背中に乗って  
ガント <sup>いっしょ</sup> 一緒に <sup>たび</sup> 旅に出るはめに！

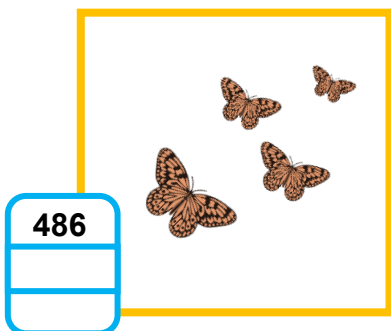


『きっとあえる』

鎌田 暢子 作 福音館書店

マガンの子どもとコハクチョウの  
あたたか〜いおはなし

日本で見られる <sup>やまどり</sup> 野鳥の多くは、<sup>きせつ</sup> 季節によって <sup>いどう</sup> 移動しています。  
移動する <sup>きょり</sup> 距離は、<sup>さんきやう</sup> 山地と <sup>へいぢ</sup> 平地、<sup>ほっかいどう</sup> 北海道と <sup>ほんしゅう</sup> 本州、  
<sup>にほん</sup> 日本と <sup>かいがい</sup> 海外など <sup>さま</sup> 様々ですが、日本と <sup>かいがい</sup> 海外とを  
移動するものを「<sup>わたりどり</sup> 渡り鳥」と呼んでいます。  
特に、夏に日本を <sup>おとす</sup> 訪れる鳥を「<sup>なつどり</sup> 夏鳥」、冬に訪  
れる鳥を「<sup>ふゆどり</sup> 冬鳥」、渡りの途中 <sup>とちゆう</sup> で日本に <sup>た</sup> 立ち寄る  
鳥を「<sup>たびどり</sup> 旅鳥」と呼びます。  
<sup>かんきょう</sup> 環境省HP「<sup>わたりどり</sup> 渡り鳥の生態」より



『旅する蝶』

「わたる」のは鳥にかぎらず、  
<sup>ちい</sup> 小さな <sup>ちよう</sup> 蝶 オオカバマダラは、  
カナダからメキシコまで  
4000Km の旅をする。



これはラベルの  
ばんごうだよ

488

次に支援員がくるのは

